



D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL. 059-226-2766
FAX. 059-229-0967

N° 54 octobre 2000 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

三重日仏協会は会員アンケートによる要望も取り入れ、今年度総会で活動充実のためのいくつかの方針を決めましたが、その具体化が漸次進みつつあります。今回はとりあえず二つの試みを紹介します。ぜひ積極的にご参加ください。

11月伊勢市で初の「例会」 下宮近く『カフェ・ランティエ』で

本会の「例会」は原則として毎月第三木曜日に津市で開いておりましたが、会員が広く県内各地に分布している実情にそぐわないという問題があり、今回随時北勢や南の方でも会合を重ねていくことにしました。最初の試みとして、三重日仏協会南勢支部の発足を兼ね、下記のように食事と懇談の会を開きます。伊勢市近くにお住まいの会員はもちろん、どなたでも気軽にご参加ください。同伴者も歓迎です。

- 11月16日(木) 午後7時より
- 『カフェ・ランティエ』伊勢市下宮近く、NTT右隣
- 食事代 3,000円(飲み物は別途、各自で)

なお当日はボジョレ・ヌヴォーの解禁日です。

問い合わせ・申し込みは 伊藤雅人0596-25-0012または滝沢059-225-2517まで。

10月例会はパソコンの「手ほどき講習会」

世の中まさにIT時代などと言われますが、いまひとつコンピューター苦手の方や、これから挑戦しようという会員を対象に、10月例会を利用して実際的な手ほどきの講習会を開催します。三重日仏協会のホームページ開設も近く、またインターネットにはフランス関係各分野の情報も豊富です。これからインターネット、Eメールをなんとか利用したいと思っておられる方には絶好の機会ではないでしょうか。

- 10月19日(木) 午後7時から
- 津市 井上様宅 059-222-6616(永井病院南隣、線路沿い)
- 指導 三吉研一さん(本会運営委員)ほか

ひと味違ったフランスの旅

伊藤 雅人 (伊勢市)

昨年の9月、南仏の自然公園とエコミュゼを巡る旅に行きました。エコミュゼ (écomusée) は、フランス語で人間をとりまく自然環境という意味でのエコロジー (écologie) と博物館を意味するミュゼ (musée) とからなる造語です。

初日はモナコの海洋博物館へ行きました。副館長に説明を受けながら案内していただきました。副館長は10年近く沖縄でサンゴの調査をされ、今回一緒にツアーに参加した人の友人であるということで、普通では入れない所へも案内していただきました。

2日目の午前、ロックブリュサンヌという田舎町にある、プロヴァンス伝統料理協会によるプロヴァンス料理講習を地元の御婦人達と一緒に受けました。メニューは、サラダ、ナスのオリーブ油炒め、タラとイワシのトマトソース煮、ブドウのタルト、イチジクの砂糖がけをオーブンで焼いたものでした。有史以来初めて日本人が来たという所で、相手の言葉はわからなくても身ぶり手ぶりでお互い意志疎通をしながらの楽しい講習でした。午後からは、フランスの国有林のあるサント・ボーム・エコミュージアムに行きました。サントボーム山は「聖なるマリアの信仰の山」で、14世紀にマリアの遺骸が見つかったところと言われています。ここでは、サント・ボーム・エコミュゼ事務局長より説明を受けました。

3日目はローヌ川河口の湿地帯カマルグへ、午前中はポンドボゴー鳥類公園をボランティアガイドによる案内で見学しました。野生のフラミンゴの生息地でもあり、たくさんのフラミンゴが飛んでいました。鳥類公園といっても私有地であり、私有地での保護活動のありかたを勉強させられました。午後はSNPNという自然保護団体が管理するカマルグ自然保護区へ、塩分の多いこの湿地帯の植物の話ガイドにいただきました。フランスはまだ狩猟のさかんな国、年間15万羽の鳥たちが犠牲になっているとのこと、また狩猟に反対する人達に狩猟団体の人間が銃口を向けるなどの残念な話も聞きました。

4日目はカマルグ博物館と米博物館へ。カマルグ博物館では、この土地のデルタの生いたちや農漁狩猟や民族の歴史が展示されていました。この建物はもとは羊小屋だったそうです。次に米博物館へ、カマルグはフランス唯一の米作地帯。と言ってもフランスでは米は水分を抜いてアルファ米にして消費され、年間ひとり1.5kgほどしか食べないという。米博物館は農家の建物の中にあり、昔から使われて来た道具などが展示してあり、その主人に説明していただきました。米博物館は本来このツアーのコースになかったのだけど、私の願いで入れてもらいました。そういうところが旅行会社の観光ツアーとは違うところで、とても思い出深い旅でした。次回は来年の8月後半にフランスで最大級の野外劇が行われている PUY DU FOU (ピュイ・デュ・フ) やブルターニュ地方のエコミュージアム、またはセヴェンヌ国立公園内のエコミュージアムとパリの国立民芸民間伝承博物館、自然史博物館などに行く予定です。



カマルグのフラミンゴ

フランスに生きる三重県人(Ⅱ)

日本語教育ひとすじ在仏13年

大島弘子さん

大島弘子さんは三重日仏協会会員・大島ムツミさんのご長女でパリ在住。シリーズ2回目の今号はご本人からいただいた文章をそのまま掲載します。かつて夏休みで来日中、本会『パリ祭』に参加した当時小学生のお嬢さん紅ベニさん(写真右)もこんなに大きくなりました。



私は1957年の1月に一身田で生まれたそうなのですが、私自身の記憶がはっきりしてくるのは高茶屋に移り住んでからです。当時は町に出るためには30分以上もバスに乗らなければならなくて、随分町からはずれたところに住んでいると感じていました。おまけにバスに酔ったりしたので、あまりどこへも行きたくなくて、いつも隣近所で遊んでいました。でも、そのころのわが家の近くには結構おもしろい遊び場がありました。鉄条網のすきまから入り込んでプロレスごっこなどをしていた大きな草地があったんですが、あれは精神病院に附属したものだったんでしょうか。草の実学園の敷地内ではよく自転車を乗り回したりしていましたし、竹藪の中でもかくれんぼや探検隊ごっこなどをよくやりました。思えば、私の幼稚園、小学校時代は、どこで遊んでもあまり怒られた記憶がありません。回りの大人も今程、子供のすることに一々目を向けていなかったのではないかという気がします。夕日の沈むのを追いかけて海の方まで行ってしまい帰りが遅くなり暗くなって怖かったという思い出もあります。どういわけか現在の私は都会指向で、土地とか一軒屋とか庭とか緑とかに対する憧れがあまり強くないのですが、これは多分あの頃に遊びながら周りの自然を満喫したからではないかと思えます。

高田中学校に入学した当初は、高茶屋から一身田まで汽車通学をしていたのですが、うちから学校まで遠いし、急に勉強中心の生活になってしまったので、すっかりリズムが狂ってしまい、神経質だった私は、胃炎で学校を休んだりしました。一学期が終わった頃、江戸橋に引っ越したので、学校が近くなってほっとしたのを覚えています。江戸橋の家の私の部屋は二階にあり、窓からはひっきりなしに通り過ぎる近鉄の電車が見えました。今は、近鉄ではあまり遠くまでは行けないという現実を知っていますが、その当時は走り行く電車を見送りながらなぜかロマンチックな気持ちになって、自分がある日遠くに行くことを夢見ていました。今、フランスまで渡って来てしまったのは、あの夢の続きではないのかと時々思ったりします。

津高等学校に入学した年に、今でも母が住む長岡町の家に引っ越しました。高等学校の三年間は私の思い出の中で一番暗い年月です。あの頃は嫌いな科目の勉強(数学、物理など)が嫌でたまりませんでした。逃げてばかりいたので結局成績もよくありませんでしたし、大学受験の結果もさんざんでした。でも、おもしろいことに、そんな私でも、もっと後になってから、強

制されてやるのではなく自分が望んでやる勉強がどんなに楽しいかということを知ることになります。大学受験の時にもう自分の専門分野を決めなければいけないなんて早すぎるとしみじみ思います。

結局、同志社女子大学の英文科に入りました。英語は好きでしたが、英語を使って何をするというあてもなく、かといって、専業主婦になってしまうというのも夢のない感じがして、迷いの年月を過ごしました。その間、自分の可能性を探すために色々なアルバイトをやりましたし、色々な習いごともしました。大学三年の時に、構内掲示板で「英語を使って外国人に日本語を教えませんか」という通信教育のポスターを見つけ、こんな可能性もあるんだと興味を感じたので、早速取り寄せてみました。思えば、それが私と日本語教育との最初の出会いでした。その後、その道を進もうと思い、大阪外国語大学の大学院で日本語学専攻の修士課程に進みました。日本語の教師となり、日本、韓国、フランスと動きまわりましたが、結局今まで20年間、同じ仕事を続けています。

ですが、1987年にフランスに来た当初はうまくいかず、7年間の教育経験も日本で得た修士号も認めて貰えませんでした。履歴書を出す度に、「どのぐらいフランス語がしゃべれるの、フランスでの学位は何をもっているの」と聞かれるのみで、くやしく悲しい思いをしたあげく、もう一度やりなおさなくては同じ仕事を続けることはできないということを悟り、フランスの大学に入り直しました。やっと言語学の博士号を手にしたのは、1994年のことです。勉強を続ける間に自然に大学の門戸が開いてきて、ル・アープル大学で専任講師になったのが1991年で、その後オルレアン大学で助教授になり、この秋からはパリ第七大学に移ることになりました。

フランスの大学は、外国籍の教員を全然差別せず、私は日本籍のまま、仏文部省の公務員です。人より長く学生をやりましたが、おばさん外国人学生も全然奇異な目で見られず、あまりストレスなく学生時代を過ごすことが出来たのは、あらゆる違いを許容するフランスの懐の深さのおかげだと思います。

パリ生活13年になりますが、あまり垢抜けないので、日本に帰って都会に行ったりすると、まるで三重県からそのまま来た人みたいと言われますが、最近の私はそういう言われ方をとても嬉しく感じます。

10/7 柏木先生による文芸講演会 (公開・無料)

『ジュール・ルナールと日本の作家 上田敏、暮鳥から龍之介、太宰まで』

大阪大学・柏木隆雄教授による本会主催文芸講演会シリーズの第4回目、今回は下記のように公開で開催します。お誘い合わせてご来聴ください。

柏木先生は松阪市のご出身。バルザックの研究では有名で最近もちくま学芸文庫<謎とき『人間喜劇』>を出しておられますが、またジュール・ルナールにも造詣が深く、ジュール・ルナール全集の編集と翻訳に力を尽くされ、<イメージの狩人…評伝ジュール・ルナール>(いずれも臨川書店)の著書もあります。

今回のご講演内容について、——『にんじん』などで知られるルナールは、そればかりではなく彼の著作で数多くの日本の近代作家にその方法、文学精神において明治末から太平洋戦争にいたるまで大きな影響を及ぼした。そのことを具体的な作品に即しつつ明らかにしたい。——とっておられます。

10月7日(土) 午後3時~5時

津市 津駅前第一ビル6階会議室

なお終了後、柏木先生を囲んでの食事と懇談の場を計画しております。ご希望の方は事前にスタッフの菅谷さん(059-223-2690)まで申し込んでください。

11/1~5 『まなびぴあ三重2000』に出店 フランス・パンとワインのブース

「全国生涯学習フェスティバル」という事業が今年三重県の担当で『まなびぴあ三重2000』として四日市市霞が浦の四日市ドームで開催されますが、その一環である「食文化と物産コーナー」に今年も人気のフランス・パンとワインのブースを三重日仏協会の名前で出店することになりました。秋の行楽シーズンにあたり、ぜひお出かけください。またブースでのお手伝いのボランティアを募集しています。当日はフランス語のダメム先生もブースで活躍される予定。詳細は滝沢059-225-2517まで。

2001.1/6(土) 饗宴21 —piano piano piano—

本会会員の菅原さん・大廣さん 在仏の伊藤さんも出演

三重県などが主催するピアノ・コンサート。地元中心に18人のピアニストと3人の作曲家が登場、また同時に最大5台のピアノが演奏されるという珍しい催しです。本会会員でおなじみの菅原美枝子さん、大廣朋子さんが出演するほか、パリ在住の伊藤隆之(四日市市出身)さんもかけつけます。

2001年1月6日 15:30 開演

三重県文化会館大ホール

指定席 3,000円 自由席 2,000円 学生自由席 1,000円

東海集中豪雨にアルランデイス画伯から見舞いのファクス

9月11日東海地方を襲った集中豪雨は名古屋周辺や、四日市市など一部三重県にも大きな被害をもたらしましたが、このニュースをフランスで知ったアルランデイス画伯(在マルセイユ 本会主催の美術展などでたびたび来県)から、12日午後本会メンバーの安否を案ずる走り書きのファクスが届きました。一部をご紹介します。

Chers amis,
J'apprends avec stupeur à midi la violence du typhon sur Nagoya. J'espère bien vivement que vous n'avez pas trop de problème sur Tsu ou Yokkaichi!
Sachez que je sois de tout cœur avec vous,.....
Amitiés à tous.

事務局ではさっそく状況説明と感謝の返事を送りました。